

ことわざ（185問） 解答

中学受験 国語（語彙）

名前 _____ 月 _____ 日 _____ 点 _____

意味に合うことわざを、「」のヒントをもとに書きましょう。○の数はひらがなで書いたときの字数です（答えは漢字でもひらがなでもかまいません）。

1 弟子が師匠よりも優れた知識や技能を身につけること 「○○は○○より出でて○○より○○し」	青は藍より出でて藍より青し
2 悪い行いや噂は、世間に広まるのが早い 「悪事○○○を走る」	悪事千里を走る
3 目の前のことが解決すれば、後のことはもうどうなっても良い 「後は○となれ○○となれ」	後は野となれ山となれ
4 あぶと蜂の両方取れない→欲張ると1つも取れない 「○○○○とらず」	あぶ蜂とらず
5 小さなことでも続けると成果が出る 「○○○○石を穿つ」	雨だれ石を穿つ
6 問題が起こった後に、かえて以前よりも良い結果となる 「雨降って○○○○○」	雨降って地固まる
7 心配するよりやってみた方が良いということ 「案ずるより○○○○○○○」	案ずるより産むが易し
8 居づらい場所でも我慢すると、良いことがあるということ 「石の上にも○○○○○」	石の上にも三年
9 安全な橋を確かめながら渡る→慎重になる 「○○○○を叩いて渡る」	石橋を叩いて渡る
10 医者は人にアドバイスするが、自分はできていない 「医者 of ○○○○○○」	医者 of 不養生
11 危険な近道よりも遠回りでも確実な方法の方が、早く物事が終わる 「急がば○○○」	急がば回れ
12 ある事柄の一部を聞いただけで全てを理解できる 「○○を聞いて○○○を知る」	一を聞いて十を知る
13 少し先に何が起こるか分からないということ 「○○○○先は闇」	一寸先は闇
14 小さく弱い者にも意地や根性があるから、侮ってはならないということ 「○○○○の虫にも○○の魂」	一寸の虫にも五分の魂
15 何かしていると良いことが起きる 「○○も歩けば○○に当たる」	犬も歩けば棒に当たる
16 考えや知識が狭く、もっと広い世界があることを知らない 「○○○○○○○○○大海を知らず」	井の中の蛙大海を知らず
17 つまらないものでも、信じる人にとっては価値があること 「○○○の頭も○○○○から」	いわしの頭も信心から
18 相手が好意を見せれば、自分も好意的に行動しようとする 「○○○○○あれば○○○○○」	魚心あれば水心
19 思いがけないことや他人の誘いによって、良い方に導かれること 「牛に引かれて○○○○○○○○○」	牛に引かれて善光寺参り
20 身体が大きいだけで役に立たないこと 「うどの○○○○」	うどの大木

21 馬に念仏を読んでも無駄→意見や忠告に耳を貸さず全く効果がないこと 「馬の耳に〇〇〇〇」	馬の耳に念仏
22 平凡な親からは非凡な子は生まれない 「〇〇のつるに〇〇〇はならぬ」	瓜のつるになすびはならぬ
23 小さなエサで大魚を釣るように、少しの労力でより大きな利益を生む 「〇〇で〇〇を釣る」	海老で鯛を釣る
24 人に冷たくて怖い人でも時には涙を流すこと 「〇〇の目にも〇〇〇」	鬼の目にも涙
25 中途半端で役に立たないものや、その状態のこと 「帯に〇〇〇〇たすぎに〇〇〇」	帯に短したすぎに長し
26 危険な時には助かりたいから、頼りになら無い物にも救いを求める 「溺れる者は〇〇〇〇〇〇〇」	溺れる者はわらをもつかむ
27 いつも大事に世話をしてあげている相手から裏切られる 「〇〇〇〇に手を噛まれる」	飼い犬に手を噛まれる
28 子供の才能や性格は親に似るということ 「蛙の子は〇〇〇」	蛙の子は蛙
29 蛙に水をかけても平気のように、何をされても平然としていること 「蛙の面に〇〇」	蛙の面に水
30 名人でも失敗することがあること 「河童の〇〇〇〇〇」	河童の川流れ
31 隠し事をしても、誰がどこで見聞きしているか分からない 「壁に〇〇あり障子に〇あり」	壁に耳あり障子に目あり
32 やるべき努力をした後は、待っていればきっと良い結果になって現れる 「〇〇〇は寝て待て」	果報は寝て待て
33 年上の人の経験はありがたいものであること 「亀の甲より〇〇〇〇〇」	亀の甲より年の功
34 大したことの無いものでも、無いよりはましである 「〇〇〇も山のにぎわい」	枯れ木も山のにぎわい
35 可愛い子供は、甘やかさずに厳しい経験をさせた方が良い 「かわいい子には〇〇〇〇〇〇」	かわいい子には旅をさせよ
36 優れたものは、多少悪い状態になっても価値を保っているということ 「腐っても〇〇」	腐っても鯛
37 余計なことを言わない方が良いということ 「〇〇は禍の門」	口は禍の門
38 立派な人は危険なところには近寄らない 「君子〇〇〇〇〇近寄らず」	君子危うきに近寄らず
39 どんな名人や達人でも、ミスを起こすことはあるということ 「〇〇〇〇にも筆の誤り」	弘法にも筆の誤り
40 他人のことには忙しいが自分のことにはかまわないこと 「紺屋の〇〇〇〇〇」	紺屋の白袴

61 近くは明るくないこと→近くのことはわからないということ 「灯台〇〇〇〇〇」	灯台下暗し
62 手ごたえがないこと、効き目がないこと 「豆腐に〇〇〇〇」	豆腐にかすがい
63 手に入るかどうか分からないものに期待し計画を練ること 「〇〇〇〇〇〇の皮算用」	捕らぬ狸の皮算用
64 どれもあまり差がないこと 「どんぐりの〇〇〇〇〇」	どんぐりの背くらべ
65 いやなときにいやなことが起きる→最悪 「泣き面に〇〇」	泣き面に蜂
66 優しくすることは、人のためでなく自分のためになるということ 「情けは〇〇〇〇〇〇〇〇」	情けは人の為ならず
67 七回失敗しても八回頑張る 「七転び〇〇〇」	七転び八起き
68 回りくどくて効き目がないこと 「二階から〇〇〇〇」	二階から目薬
69 物事は繰り返す 「〇〇〇〇〇〇は三度ある」	二度あることは三度ある
70 二つ狙うと一つもとれない→欲張ると一つもとれない 「二兎を追う者は〇〇〇〇〇〇〇」	二兎を追う者は一兎をも得ず
71 手ごたえがないこと、効き目がないこと 「ぬかに〇〇」	ぬかに釘
72 濡れた手だと粟をつかみやすくなる→もうかること 「〇〇〇で粟」	濡れ手で粟
73 好きなものを近くに置くと危険だということ 「猫に〇〇〇〇〇」	猫にかつおぶし
74 猫にお金をあげても無駄である 「猫に〇〇〇」	猫に小判
75 本当の実力者は力を隠している 「〇〇〇〇〇〇は爪を隠す」	能ある鷹は爪を隠す
76 すぐに忘れてしまう 「喉元過ぎれば〇〇〇〇〇〇〇〇」	喉元過ぎれば熱さを忘れる
77 手ごたえがないこと、効き目がないこと 「暖簾に〇〇〇〇」	暖簾に腕押し
78 見た目や形よりも実際に利益になることを選ぶこと 「〇〇より団子」	花より団子
79 早起きするとちょっといいことがある 「〇〇〇〇は三文の徳」	早起きは三文の徳
80 噂や評判もすぐなくなること 「人の噂も〇〇〇〇〇〇〇日」	人の噂も七十五日

81	百回聞くより一回見た方が良く分かる 「百聞は〇〇〇〇〇〇〇〇」	百聞は一見にしかず
82	豚に真珠をあけても無駄→価値の分からない者に貴重なものを与えても無駄であること 「〇〇に真珠」	豚に真珠
83	下手だけど熱心にやっている 「下手の〇〇〇〇」	下手の横好き
84	何もやらないと、何も起こらない 「〇〇〇〇〇〇は生えぬ」	蒔かぬ種は生えぬ
85	待つと良いことがある 「待てば〇〇〇〇〇〇〇〇あり」	待てば海路の日和あり
86	三歳のときの性格は、百歳まで続くということ 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇百まで」	三つ子の魂百まで
87	すごく熱いものに水をかけてもすぐには冷めない→あまり意味がない 「焼け石に〇〇」	焼け石に水
88	嫌なときに嫌なことが起きる→最悪 「〇〇〇〇目に〇〇〇〇目」	弱り目に祟り目
89	自分にとって良いことは辛く感じる 「〇〇〇〇〇〇は口に苦し」	良薬は口に苦し
90	悪いことや欠点を全部隠しきれておらず、他人に見つかってしまうこと 「〇〇〇〇隠して〇〇隠さず」	頭隠して尻隠さず
91	夏の暑さも秋の彼岸には、冬の寒さも春の彼岸には、和らぐこと 「〇〇〇〇〇〇〇〇も彼岸まで」	暑さ寒さも彼岸まで
92	好きになると、相手の欠点も長所のように思えてしまうこと 「〇〇〇〇もえくぼ」	あばたもえくぼ
93	嘘も場合によっては良い 「嘘も〇〇〇〇」	嘘も方便
94	他人の利益のために、自らが危険をおかす 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇を拾う」	火中の栗を拾う
95	無駄なことを言わなければ撃たれることはない 「雉も鳴かずに〇〇〇〇〇」	雉も鳴かずに撃たれまい
96	思い切って大きな決断を下す 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇から飛び降りる」	清水の舞台から飛び降りる
97	ほとんど差がない 「五十歩〇〇〇〇」	五十歩百歩
98	何事も人より早く始めれば、優位に立つことができる 「〇〇〇〇〇〇〇〇人を制す」	先んずれば人を制す
99	やることをやって、あとは結果を待つだけ 「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇天命を待つ」	人事を尽くして天命を待つ
100	役立つものや優れた才能があるのに、それらを活用していない様子 「〇〇〇〇の持ち腐れ」	宝の持ち腐れ

101	旅先では知人がいないから、恥ずかしいことをしてしまってもその場限り というものである 「旅の恥は〇〇〇〇」	旅の恥は掻き捨て
102	時間はお金と同様に価値があるもの→時間は大切にすべき 「〇〇は金なり」	時は金なり
103	平凡な親が優れた子を生む 「〇〇が〇〇を生む」	とびが鷹を生む
104	他人の力を利用して威張った態度をとる人 「〇〇の威を借る〇〇〇」	虎の威を借る狐
105	自ら危険や災難に飛び込んでいくこと 「飛んで火に入る〇〇〇〇〇」	飛んで火に入る夏の虫
106	自分より偉い人には従った方が物事がうまく進む 「〇〇〇〇〇〇には巻かれる」	長い物には巻かれる
107	何かあやしいところがあるはずだ 「〇〇〇〇〇〇〇〇に煙は立たぬ」	火のない所に煙は立たぬ
108	思いがけないことが起きる 「〇〇〇〇〇〇から〇〇が出る」	ひょうたんから駒が出る
109	おかしくてたまらない 「へそで〇〇〇〇〇〇〇」	へそで茶を沸かす
110	優しい人でも三回目までしか我慢はできない 「〇〇〇の顔も三度」	仏の顔も三度
111	良いことは、ずっとは続かない 「〇〇〇の下にいつも〇〇〇〇はいない」	柳の下にいつもどじょうはいない
112	突然 「やぶから〇〇」	やぶから棒
113	困っているときに、ちょうどよく助けがあらわれる 「渡りに〇〇」	渡りに船
114	何事も、成しとげるまでにはそれなりの年月がかかる 「桃栗三年〇〇八年」	桃栗三年柿八年
115	あれこれ議論するより、確かなものを見せるほうが早い 「論より〇〇〇〇」	論より証拠
116	幼いころに身についた習慣は、年をとっても直らない 「〇〇〇百まで踊り忘れず」	雀百まで踊り忘れず
117	よけいなつけたし。なくてもよいもの 「〇〇〇」	蛇足
118	相手の乱暴な言葉に、同じように乱暴な言葉で言い返すこと 「売り言葉に〇〇言葉」	売り言葉に買い言葉
119	突然のことにおどろいて、目を丸くするようす 「〇〇が豆鉄砲を食ったよう」	鳩が豆鉄砲を食ったよう
120	苦労したのに、つかれただけで何の得にもならない 「〇〇折り損のくたびれもうけ」	骨折り損のくたびれもうけ

121 前と後ろで、つじつまが合わないこと 「〇〇〇〇」	矛盾
122 入浴の時間がとても短いこと 「〇〇〇の行水」	烏の行水
123 その人を憎むと、その人に関係するものすべてが憎くなる 「坊主憎けりや〇〇まで憎い」	坊主憎けりや袈裟まで憎い
124 争わずに相手に勝ちをゆづった方が、結局は得になる 「〇〇〇が勝ち」	負けるが勝ち
125 自分の悪い行いのために、自分が苦しむこと 「身から出た〇〇」	身から出た錆
126 その土地に行ったら、その土地のならわしに合わせるのがよい 「郷に入っては郷に〇〇〇〇」	郷に入っては郷に従え
127 あれこれと、しなくてもよい心配をすること 「〇〇〇」	杞憂
128 どんな所でも、住みなればよい所に思えてくる 「住めば〇〇〇」	住めば都
129 家がらよりも、育てられ方のほうが人をつくるうえで大切だ 「〇〇より育ち」	氏より育ち
130 今の苦労は、のちの楽しみのもとになる 「苦は楽の〇〇」	苦は楽の種
131 はっきり言わないほうが、味わいがある 「言わぬが〇〇」	言わぬが花
132 性質のちがうものをつぎ合わせて、つり合いがとれないこと 「木に〇〇をつぐ」	木に竹をつぐ
133 名人は、道具のよしあしに関係なく、りっぱな仕事をする 「弘法〇〇を選ばず」	弘法筆を選ばず
134 親が自分を思ってくれる気持ちに気づかず、勝手なことをする 「親の心〇知らず」	親の心子知らず
135 ほとんど仕上げて、いちばん大切なところがぬけている 「仏作って〇〇〇〇入れず」	仏作って魂入れず
136 初めはでたらめだったことが、偶然本当になること 「〇〇から出たまこと」	嘘から出たまこと
137 旅には連れがあると心強いように、世の中は助け合いが大切だ 「旅は道づれ世は〇〇〇」	旅は道づれ世は情け
138 世の中には、冷たい人ばかりでなく、親切な人もいる 「渡る世間に〇〇はない」	渡る世間に鬼はない
139 大切なことのためには、ほかのことを犠牲にするのもしかたがない 「背に〇〇はかえられぬ」	背に腹はかえられぬ
140 身近なところで、思いがけないことが急に起こる。また、急に思い立って物事を始める 「足もとから〇〇が立つ」	足もとから鳥が立つ

141	よけいなことをして、かえって災いをまねく 「やぶをつついて〇〇を出す」	やぶをつついて蛇を出す
142	他人の行いを見て、自分の行いを反省し、改めよ 「人の振り見て〇が振り直せ」	人の振り見て我が振り直せ
143	あやうく死にそうなところを、かろうじて助かる 「〇〇〇〇に一生を得る」	九死に一生を得る
144	よけいな手助けをして、かえって害をあたえること。また、ある傾向をいっそう強めること 「〇〇〇〇〇」	助長
145	出世や成功のための、むずかしい関門 「登〇〇〇門」	登竜門
146	道理のわからない者に、いくら教えてもむだだ 「〇〇に論語」	犬に論語
147	子どものころからの、仲のよい友だち 「〇〇〇の友」	竹馬の友
148	強い者が、さらに強くなること 「鬼に〇〇〇〇」	鬼に金棒
149	たくさんの中の、ほんのわずかな部分 「九〇〇〇の一毛」	九牛の一毛
150	失敗やまちがいが、思いがけずよい結果になること 「怪我の〇〇〇〇〇」	怪我の功名
151	あっても役に立たず、かえってじゃまになるもの 「無用の〇〇〇〇〇」	無用の長物
152	集団の中心になって、思いどおりに動かす 「〇〇〇〇を執る」	牛耳を執る
153	なんとなく気に入くない 「〇〇が好かぬ」	虫が好かぬ
154	親の地位や名声のおかげで、子どもが得をすること 「親の〇〇〇〇〇」	親の七光り
155	思いがけない出来事が、突然起こること 「青天の〇〇〇〇」	青天の霹靂
156	始めた以上、とちゅうでやめられない激しい勢い 「騎〇の勢い」	騎虎の勢い
157	たいへん親しいつき合い 「水〇〇の交わり」	水魚の交わり
158	ひじょうに危険なことをする 「〇〇の尾を踏む」	虎の尾を踏む
159	小さなことが積み重なって、大きなことになる 「〇〇〇が塩を引く」	鼠が塩を引く
160	どこへ行っても、人のすることは同じだ 「どこの〇〇〇〇も裸足」	どこの鶏も裸足

161	問題にもしない。相手にしない 「〇〇にもかけぬ」	歯牙にもかけぬ
162	全体はよくできているが、最後の大切な仕上げが足りない 「画竜〇〇〇〇を欠く」	画竜点睛を欠く
163	きげんが悪く、ちょっとしたことでもおこる 「〇〇の居所が悪い」	虫の居所が悪い
164	似たような物事が、次々に現れること 「〇〇のたけのこ」	雨後のたけのこ
165	人生の幸せや不幸は、前もって決められない 「人間万事塞翁が〇〇」	人間万事塞翁が馬
166	事が起きてから手を打っても、間に合うことがある 「〇〇〇を見て鷹を放つ」	兎を見て鷹を放つ
167	正直な人には、必ず天の助けがある 「正直の頭に〇〇宿る」	正直の頭に神宿る
168	初夢に見ると縁起がよいとされるものを、順にならべた言葉 「一富士二〇〇三なすび」	一富士二鷹三なすび
169	一人が二つの仕事を、同時に受け持つこと 「〇〇〇のわらじをはく」	二足のわらじをはく
170	一度悪いことに手を出したら、最後までやりとおす 「毒を食らわば〇〇まで」	毒を食らわば皿まで
171	大さわぎしたわりに、結果は小さいこと 「泰山鳴動して〇〇〇一匹」	泰山鳴動して鼠一匹
172	ひどい政治は、人を食う猛獣よりもおそろしい 「苛政は〇〇よりも猛し」	苛政は虎よりも猛し
173	区別がつかないこと。また、動作がにぶいこと 「闇から〇〇を引き出す」	闇から牛を引き出す
174	むやみにいばる者は、実際には力がない 「吠える〇〇はかみつかぬ」	吠える犬はかみつかぬ
175	困っているときに、思いがけない助けにあうこと 「地獄で〇〇〇にあったよう」	地獄で仏にあったよう
176	小さなことを処理するのに、大げさな方法を使う 「牛刀をもって〇〇〇〇をさく」	牛刀をもって鶏をさく
177	この先どんなことが起こるか、まったくわからない 「鬼が出るか〇〇が出るか」	鬼が出るか蛇が出るか
178	一つのことに夢中になると、まわりのことが見えなくなる 「〇〇を追う者は山を見ず」	鹿を追う者は山を見ず
179	このうえなくていねいにたのんだり、あやまったりする 「〇〇〇のひざを八重に折る」	七重のひざを八重に折る
180	弱い者に強い者を率いさせる。役に合わない人を上に立てる 「〇〇〇をして狼に将たらしむ」	羊をして狼に将たらしむ

181	すばやい者も、のろい者も、一生は一生で変わりがない 「〇〇も一生なめくじも一生」	蛇も一生なめくじも一生
182	おとなしい者でも、ひどくいじめられるとおこる 「兎も〇〇〇なぶれば噛みつく」	兎も七日なぶれば噛みつく
183	かわいくてたまらないようす 「〇の中に入れても痛くない」	目の中に入れても痛くない
184	活発に動いている人は、いつも新鮮でいられる 「転がる石には〇〇が生えない」	転がる石には苔が生えない
185	悪人をこらしめたくても、そばにある大切なものを傷つけるおそれがある、手を出しにくい 「〇〇〇に投げんとして器を忌む」	鼠に投げんとして器を忌む